

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：景観建築学科

資格：助教

氏名：田中 佑奈

研究分野	研究内容のキーワード
都市計画学、景観デザイン	伝統的町並み、ファサード、帰納論理プログラミング、遮蔽線
学位	最終学歴
博士（建築学）、修士（建築学）、学士（建築学）	武庫川女子大学大学院 生活環境学研究所 建築学専攻 博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」Autocad演習の実施	2020年4月～2020年8月	Autocad関連のマニュアルを作成し、平面図の作成および3Dパース作成の演習を実施した。
2. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」図学演習問題の解説	2020年4月～2020年8月	図学の演習で毎回実施する演習問題の添削について、理解が不十分であった問題の解説（作図の考え方や求め方）を作成し、理解の向上につながるよう工夫した。
3. 建築学科2年生前期・後期「CAD・CG応用演習Ⅱ」マニュアル更新と学生へのフィードバック資料の追加	2019年	CAD・CG応用演習において、VecterworksやPhotoshop、Illustratorの操作について、学生から質問を受けた内容や、毎回の授業で提出を要求する図面やCGパースなどから、理解が不十分であると考えられる箇所についてまとめ、次の授業で補助資料を配布することにより、学生の理解度を高めるよう工夫した。また、Vecterworksのバージョン更新により、旧バージョンから変更になった箇所については、マニュアルの更新および資料を追加した。
4. 2017年度 建築学科 イタリア海外研修 2班	2017年8月26日～2017年9月6日	海外研修Ⅰの授業として、建築学科2年生36名が参加した14日間のイタリア（8都市）における研修の企画および引率を担当した。特に、岡崎教授主導の下、主担当で研修先の検討を行い、旅行会社との調整も行った。そのほか研修における計画書の作成、現地での実測調査の補助、研修資料を用いた補足説明、研修時の写真撮影などを行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」	2020年8月	図学演習問題の解説の作成およびまとめテストを作成した。そのほかAutocadの2D（平面図）および3Dパースの作成に関する基本的な操作方法のマニュアルを作成した。
2. イタリア海外研修における研修資料の作成	2017年9月	海外研修Ⅰの授業として、岡崎教授主導の下、主担当で研修資料を作成した。研修先の地図を作成することで、見学先の位置関係や移動時間などを各自がビジュアル的に把握できるようにした。その他、歴史的建築物のデザイン（寸法体系やディテールなど）の理解を深めるために、カナルグランデ沿い立面図に各建築物の解説を付けた資料や、研修先の図面集を作成し、事前研修のレポート課題や研修先での解説に活用した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 建築学科作品展	2019年4月1日～	建築学科作品展において、学生が授業外の時間で製作に取り組むポスター案の指導を行う。ビジュアル的に充実したポスターのデザイン手法を共同で検討する。
2. 学内設計作品の展示	2017年6月～現在	甲子園会館および建築スタジオの展示スペースに、学生の設計作品や建築・都市デザインスタジオで取り組んだ設計作品の模型やポスターを展示し、ライトアップやオープンキャンパスなどのイベント時に紹介している。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 阪神鳴尾駅プロジェクトに関する成果報告	2018年4月6日～2018年6月1日	建築設計実務で取り組んだ阪神鳴尾駅プロジェクトを通し、本学における設計の取り組み方や教育方針、自身の研究活動に関する取材を受け、新聞に掲載された。また、掲載された記事をHPで報告した。 ・産経新聞（朝刊）「大学発 社会をつなぐ」（2018年4月6日および4月13日掲載分の取材、HP更新を担当） ・朝日新聞（朝刊）「まなびバ! 大学編」

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
2. 武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 主催 / 東京センター 共催 講演会シリーズ「シルクロードと文化の建築」	2016年6月4日～現在	(2018年4月24日掲載、取材の一部を担当) 本講演会シリーズでは、シルクロードを通して行われてきた、わが国と地中海を結ぶ長い歴史の異文化交流やその文化遺産保護活動における重要性や問題を考える。 (講演会の配布資料準備、会場運営、講演会参加者の対応などを担当)		
3. 武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 主催 / 東京センター 共催 講演会シリーズ「わが国の近代建築の保存と再生」	2016年5月14日～現在	本講演会シリーズでは、近代建築を通し、豊かな都市環境の在り方について考える。 (講演会の配布資料準備、会場運営、講演会参加者の対応などを担当)		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. ファサードの立体的な構成に着目した伝統的町並みの特徴 - ファサードの構成要素がもつ属性の共起関係ならびに 遮蔽縁およびその背後から現れる構成要素に着目して -	単	2019年3月	武庫川女子大学大学院 博士学位論文	本論文は、伝統的町並みのファサードの構成要素の特徴や、歩行に伴う町並みの見え方の変容の特徴を明らかにし、景観保全に貢献しうる知見を得ることを目的とし、3次元モデルを用いたファサードの分析手法を開発し、その手法を用いて両地区のファサードの特徴を明らかにする。分析対象は、伝統的建築物群保存地区に指定されている京都市の祇園新橋地区および産寧坂地区である。第1章では、ファサードの構成要素の属性の共起関係の分析を行っている。町並みのファサードを、4つの属性（種類、壁面上の配置、色彩、立体的形状）をもつ構成要素の集合としてデータ化した上で、機械学習の一種である帰納論理プログラミング（ILP）を用いて、各地区に固有な構成要素の属性の共起関係を表す規則、すなわち両地区のファサードの相違を識別する規則を発見した。第2章では、3次元の町並みの歩行時の視覚的体験に着目し、ファサードを構成する要素が、背後に他の構成要素を隠している出隅（遮蔽縁）と、その背後から現れる構成要素（出現要素）の見え方の変容について定量的分析を行った。歩行に伴うファサードの見え方の変化の過程を、街路に沿って1.8m間隔で直線移動する視点から見た透視図のシークエンスとしてデータ化し、現地調査に基づき、CADで両地区のファサードの3次元モデルを構築し、これらの3次元モデルと視点の情報から、遮蔽縁を自動検出して透視図上に表示するプログラムを作成した。これを用いて、両地区の街路を歩行した時に見える遮蔽縁の数や見かけの長さなどの変容を詳細に分析し、各地区の特徴的な視点場とその空間構成について明らかにした。さらに、構成要素の輪郭の一部が遮蔽縁になっている遮蔽要素とその背後から見えてくる出現要素の数の推移や種類を分析し、①出現要素が特に多い視点場、②「遮蔽要素」と「出現要素」の種類の共起関係、③垂直方向・進行方向・左右方向のいずれの向きの遮蔽縁から、何個の要素が何回の視点移動に渡って出現するかを表す出現パターン、などを明らかにした。
2. 大阪市空堀地区における路地の街並み景観の分析 -路地の表出要素の分布調査と帰納論理プログラミングを用いた空間構成の規則の抽出-	単	2016年3月	武庫川女子大学大学院 修士論文	大阪市空堀地区を対象に、路地の街並み景観の特徴を分析する新たな手法を提案している。第1章では統計データから空堀地区とその周辺地域との比較を行い、近年人口が増加し、長屋世帯数が多い地域であることを示した。第2章では、現地調査により中高層建築物や空堀地区の特徴である伝統的建物、修景建物の分布を調査した。さらに同地区の82の路地を対象に各路地に面する長屋の植栽やしつらえ等の表出要素の特徴的な分布を調査した。第3章では、空堀地区の中で最も多く表出要素が分布する路地の一つを取り上げた。帰納論理プログラミング（Progol）を用い、路地に面する各戸のファサードの構成要素による3次元モデルを分析し、各長屋の特徴をそれに隣接する両隣の長屋との関係によって、路地の街並み景観の特徴を明らかにした。
3 学術論文				
1. 伝統的町並み景観における遮蔽縁と出現要素に着目した空間構成の特徴 -京都市 祇園新橋地区 新橋通りの歩行時を対象とした定量的分析- (査読付)	共	2019年5月	日本建築学会計画系論文集, 第84巻, 第759号, pp. 1155-1165	田中佑奈, 岡崎基幸, 杉浦徳利 本研究では、京都の祇園新橋地区新橋通りを対象に、町並みの見え方の変化の特徴やそれらの変化が生じる空間構成の特徴を明らかにすることを目的とする。そこで、3次元モデルを用い、新橋通り上に1,800mm毎に配置した各視点の遮蔽縁およびその背後から現れる要素（出現要素）を抽出する分析手法を提案した。まず、各視点の出現要素数および種類別の出

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. The Analysis of the Characteristic of Composition Elements for the Traditional Townscape by Inductive Logic Programming: Focusing on Bamboo Blinds in the Gionshinbashi District (査読付)	共	2018年3月	Institute of Turkish Culture Studies, International Understanding, Vol.7, pp.31-40	<p>現要素数の推移を分析し、新橋通り全体の町並みの見え方の変化の特徴を把握した。以上を踏まえ、視点とどの程度離れた遮蔽縁から要素が出現するのかを把握するために、視点から遮蔽縁および出現要素までの距離を計上し、遮蔽縁の組み合わせや遮蔽要素と出現要素の種類などを含め、町並みの見え方に影響を与える空間構成の特徴を考察した。さらに、新橋通り全体の遮蔽縁の組み合わせ48個を対象に、要素の出現パターンを分類し、新橋通りの主要な出現パターンと遮蔽縁と出現要素の配置の特徴を明らかにした。(全文執筆)</p> <p>Yuna Tanaka and Shigeyuki Okazaki The purpose of this study is to analyze the characteristics of each facade of all buildings on both sides considering having bamboo blinds or not along the Shinbashi-dori Street in the Gionshinbashi district. Composition elements are described in 4 attributes; types, position on the facade, color, and form, which is expressed in first order logic. The rules of the elements were extracted in whole facade on each side by ILP. Followings findings has been made about the characteristics of the rules on both sides: [1] the facade on the north side are composed with various types of composition elements, in contrast to it, the facade on the south side are composed with architectural composition elements having the horizontal regularity of the size for the entire frontages of buildings with their uniform color with bamboo blinds, and [2] on the north side with their characteristic variety of form, in contrast to it, on the south side with their uniform color without bamboo blinds. (全文執筆)</p>
3. A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING (査読付)		2016年7月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 4th International Conference, Selected Papers, pages 171-178	<p>Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugura The purpose of this study is to analyze the characteristics of row house facades in the alley in Karahori District area, using Inductive Logic Programming (ILP). Each elements of facade was assembled in 3-D models and they were described in two types of attributes; types of elements and types of relations. By applying ILP, the classification rules for each house were found by comparing to the adjacent houses. The following findings were made from the rules which were defined as "individual rules": (1) most traditional row houses have many individual rules; (2) traditional row houses have individual rules that refer to 3-D composition in relation to the depth direction; (3) the two groups divided by a branch alley have different types of regularity in relation on the vertical plane; and (4) traditional row houses, which are located close to Oharai-suji Street, are the most characteristic part of the alley. (全文執筆)</p>
4. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 -京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にして-(査読付)	共	2016年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11, pp.65-74	<p>田中佑奈, 岡崎甚幸 本論文では、伝建地区に指定されている京都の祇園新橋地区及び産寧坂地区を対象に、各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の構成要素に着目し、町並み景観の特徴を把握することを目的とする。各構成要素それぞれに、タイプ、立面上の配置、色彩、形態の4つの属性情報について一階述語論理に基づく記述を作成し、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)により抽出された規則から、両地区の町並み景観全体における「構成要素」の特徴に以下が挙げられた。祇園新橋地区では、立体的な格子や、2階部分の簾、壁面の色彩に関する伝統的構成要素の特徴が挙げられた。それに対し、産寧坂地区では、商店のしつらえや階段等の建築的部以外様々な構成要素を含め、多様な色彩かつ大小様々な形態の特徴が挙げられた。両地区の町並み景観の違いを立体的に把握する手法として有効であることを示した。(全文執筆)</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 伝統的町並みにおける遮蔽要素と出現要素の種類に着目した空間構成の特徴 一産寧坂伝建地区の歩行時を対象とした定量的分析一	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)都市計画部門, pp. 1069-1070	田中佑奈, 岡崎甚幸, 杉浦徳利 本稿では、伝建地区に指定されている産寧坂を対象に、歩行に伴う町並みの見え方に変化をもたらす要素として、遮蔽要素と出現要素の種類に着目する。上り方向および下り方向の各視点における出現要素の種類別の推移と、通り全体における遮蔽要素の種類と出現要素の種類との共起関係を分析した結果、上り方向と下り方向それぞれの出現頻度の多い種類と視点場の特徴を把握した。さらに、上り方向と下り方向の共起関係の強い組み合わせを抽出し、商品が出現する際の遮蔽要素の種類が対照的であることから、店舗を商う町家の空間構成の特徴を明らかにした。(全文執筆)
2. QUANTITATIVE ANALYSIS OF CHANGES OF THE APPEARANCE OF THE FACADE FOCUSING ON OCCLUDING EDGES AND APPEARING ELEMENTS FROM THE EDGE: TARGETING THE WALKING CASE OF SANNEIZAKA DISTRICT IN KYOTO	共	2019年6月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 5th International Conference	Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiu ra In this study, we extracted occluding-edges and appearing elements from the edges of each viewpoint in ascending and descending views of Sanneizaka in Kyoto using a 3D-model, and analyzed their quantitative change with viewpoint movement. The most horizontal-edges are in both of ascending and descending directions. However, many elements appear from behind the vertical-edges, which greatly affects the changes in the appearance of the slope. And the difference in the number of elements appearing from behind the vertical-edges in the ascending and descending direction is related to the presence or absence of space to display many items behind the elements which form the vertical-edges located parallel to the slope. (全文執筆)
3. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 一京都の祇園新橋地区における簾の有無に着目して一	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)都市計画部門, pp. 501-502	田中佑奈, 岡崎甚幸 京都の祇園新橋地区を対象に、新橋通りに面する南北両側の町並みのファサードの特徴を、簾の有無に着目して分析する。各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の各構成要素に、タイプ、立面上の配置、色彩、形態の4つの属性情報を、一階述語論理に基づき記述する。以上の記述を機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)に投入し、南北両側の固有の分類規則を、簾の有無それぞれの場合において抽出する。その結果、簾の掛かる場合には、構成要素の形態に様々な特徴がある北側の町並みと、建築的な構成要素に水平方向の形態に関する特徴が見られる南側の町並みとの違いが見られる。簾を外した場合には、格子の形態に多様な特徴が見られる北側の町並みに対し、南側の町並みは、木製の構成要素に特徴が見られる。以上により、特に構成要素の形態及び色彩に関する特徴の違いを導くことができた。(全文執筆)
4. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 一京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にして 一	共	2017年8月	日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集都市計画部門: 景観評価 pp. 743-744	田中佑奈, 岡崎甚幸 本論文では、伝建地区に指定されている京都の祇園新橋地区及び産寧坂地区を対象に、各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の構成要素に着目し、町並み景観の特徴を把握することを目的とする。各構成要素それぞれに、タイプ、立面上の配置、色彩、形態(形状および材料、高さ)の4つの属性について一階述語論理に基づく記述を作成し、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)による分析の結果、祇園新橋地区では、立体的な格子や、2階部分の簾、京壁の色彩に関する伝統的な構成要素の特徴が挙げられた。それに対し、産寧坂地区では、商店のしつらえや階段等の建築的部位以外の様々な構成要素を含め、多様な色彩かつ大小様々な形態の特徴が挙げられた。以上により、両地区の町並み景観全体の違いを、構成要素により立体的に把握する分析手法の一つとして提案した。(全文執筆)
5. 帰納論理プログラミングを用いた路地の街並みにおける長屋のファサードの空間構成の特徴 一大阪市空堀地区を対象として一	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)都市計画, pp. 871-872	田中佑奈, 岡崎甚幸, 杉浦徳利 本論文は、大正期頃からの長屋が集積した大阪市空堀地区を対象に、植栽やしつらえ等の表出要素を含めた各建物の固有のファサードによる路地の街並みの空間構成の特徴を、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)を用いて分析する手法を提案する。路地に面する各建物のファサードの3次元モデルを作成し、構成要素の種類及び構成要素間の幾何学的関係について、一階述語論理に基づく記述を作成した。ILPによる分析の結果、以下の特徴が挙げられた。(1) 多くの長屋には個性的規則のパターンを多く持っていること、(2) 枝分かれの路地を境に立面的関係の規則性が変化していること、(3)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING	共	2016年7月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 4th International Conference, Proceedings, pp.99-102	隣接する4軒の長屋は、それぞれ異なる奥行き方向の平面的関係の特徴を持つこと、(4) お祇い筋の近くの長屋は、最も被覆率の高い個性的規則を含んで複数抽出され、特に個性の強い特徴をもつこと。(全文執筆) Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugura In this study, we found the characteristics of peculiar rules of the building and expression elements of traditional row houses in the alley in Karahori, Osaka using ILP. We made the following findings: (1) most traditional row houses have many individual rules; (2) traditional row houses (a1 - a4) have rules that refer to 3-D composition in relation to the depth direction; (3) the two groups divided by a branch alley have different types of regularity in relation on the vertical plane; and (4) traditional row houses (a2-a4 and b2), which are located close to Oharai-suji Street, are the most characteristic of the alley. (全文執筆)
7. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 - 京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にして -	共	2016年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11, pp. 65-74	田中佑奈, 岡崎甚幸 伝建地区に指定されている京都の祇園新橋地区及び産寧坂地区を対象に、各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の構成要素に着目し、町並み景観の特徴を把握することを目的とする。そこで、各構成要素それぞれに、タイプ、立面上の配置、色彩、形態の4つの属性情報について一階述語論理に基づく記述を作成し、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)により抽出された分類規則から、両地区の町並み景観全体における「構成要素」の特徴について、以下のことを発見した。祇園新橋地区では、立体的な格子や、2階部分の簾、壁面の色彩に関する伝統的な構成要素の特徴が挙げられた。それに対し、産寧坂地区では、商店のしつらえや階段等の建築的部以外様々な構成要素を含め、多様な色彩かつ大小様々な形態の特徴が挙げられた。(全文執筆)
8. コミュニティ衰退における社会的変遷及び生活環境的要因 - 堺市東浅香山地域の実態調査 -	共	2014年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)都市計画, pp. 431-432	田中佑奈, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 堺市東浅香山地域のコミュニティ衰退を社会変遷及び生活環境的要因から明らかにすることを目的とし、実態調査を行った。その結果、(1) プライバシー意識を軽減し近隣と関わる場である路地の減少、(2) 駐車場の所有や増改築による居間などの居住空間の閉鎖化、(3) 子どもの増加に合わせた私室増加による家族の関わりや家族構成の変化への適応性の欠如(4) ライフラインや趣味や情報を共有する場の減少、(5) 若い世代の減少や女性の社会進出に伴う地域内の関わり減少、がコミュニティ衰退の社会的変遷及び生活環境的要因として挙げられた。さらに、それらは昭和35年以降の人口増加や産業発展、電化製品の普及などの社会的変遷と関係していることを明らかにした。(全文執筆)
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. Hisham's palaceの浴場の鞘堂設計	共	2015年6月	JICA(国際協力機構), 東京文化財研究所	岡崎甚幸, 山口彩, 川崎祐華, 中村優花, 田中佑奈, 木島未実子, 中野沙耶 JICA(国際協力機構)より委託されたパレスチナにあるヒシャム宮殿(パレスチナ・ジェリコ)の浴場に残るモザイクタイル床を保護するための鞘堂を設計。東京文化財研究所との共同企画。岡崎教授の下で建築学科教員と協働で行った。作成した模型・イメージバース・図面等は、東京で行われた専門家会議で岡崎教授により発表された。膜構造の専門業者との打ち合わせにも参加し、詳細部までデザインをした。(設計提案4案のうち、第3案-膜構造を用いた屋根-における模型製作およびCG作成を共同で担当)
2. 甲子園ホテルの復刻版カステラの包装紙デザイン	共	2015年10月~11月	武庫川大学生生活環境学部 建築学科	岡崎甚幸, 山口彩, 田中佑奈, 中村優花, 松尾沙耶 武庫川女子大学 建築学科のキャンパスである甲子園ホテルの復刻版カステラの包装紙デザインを担当した。この発売に関する記事が各新聞社により掲載された。(包装紙の表紙部分の全体デザインを担当)
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 大学院意見交換会における研究内容のポスターセッションおよび研究	単	2017年3月11日	武庫川女子大学 大学院意見交換会	本学大学院生が集い、ポスターセッションを通じた研究内容の報告、他分野を専攻する学生と研究活動

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
究活動に関する討論				における問題点や改善点などに関する討論を行った。
6. 研究費の取得状況				
1. 伝統的町並み景観におけるファサードの構成要素に基づく空間的特徴	単	2018年	平成30年度 科学研究費補助金学内奨励金	伝統的町並み景観におけるファサードの空間的特徴の解明を目的とする。各建物のファサードを構成する屋根、庇、開口部、さらにファサードを彩る様々なしつらえ等を、それぞれ町並み景観の構成要素として着目する。それらを3次元化した町並み景観のファサードモデルのデータベースを構築し、帰納論理プログラミング(ILP)を用いた分析により、町並み景観の空間的特徴を把握する。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2020年4月～現在	日本造園学会
2. 2014年3月～現在	日本建築学会